

# 志津 里山自然学校 NEWS

文責：奥村 平一

## 収穫物に感謝し食事を楽しむ

11月19日（日）志津まちづくりセンターで里地里山自然学校生が一堂に会して里地の皆さんが育て収穫したサツマイモなどを添えた食事をお祝いする「収穫祭」が開かれた。

蒸したサツマイモをつぶしお餅の形にまるめレンジで焼き、少し焦げ目があるサツマイモに蜜をかけて食べる。サツマイモの甘さと

密の甘さが絡んで大変おいしかった。

「たくさんの量を時間内に作ることは大変でしたが、皆さんと一緒に料理できたことは勉強にもなったし楽しかった」と保護者からの感想。



## 世界に一つのクラフトつくる

### 親子で楽しみながら創作

なかなか日頃は親子で一つのものを作る機会が少ない中、リーダーの指導で山からとってきた小枝・ドングリや松かさなどを材料にそれぞれを組み合わせ、ポストカラーで色付けし、世界で一つのクラフト作りを楽しんだ。「ドングリに目をつけるとかわいくなってうれしかった」「クラフトづくりは楽しく、楽しかった」など多くの感想が寄せられていた。



## 「昔のくらしは苦労があったんだ」

奥村平一氏からは「昔のくらし」について話題提供があった。いつからの時間を「むかし」というか。今から70年・60年前の話になった。当時は薪や柴を作り草津の町へ売りにいき生活の糧にしてきた。自給自足の時代であった。しかし、時代は進み電気・ガスの時代になると山へ行って薪や柴を作る必要がなくなったため、生物も松などを枯らす「むし」が出現し。山は荒れ放題となる。皆さんがおじいさんやおばあさんになった時には「山」にあこがれた生活をしてほしいと願っていた。「写真や動画がないと想像もできず時間も長く感じた」と感想が寄せられた。こどもからは、「昔もいろいろ努力があった」と。